

# 夏近し！ 夕涼みのおともに クロスロード新聞

2006年7月14日

発行元：108-8345 港区三田2-15-45  
慶應義塾大学商学部 吉川肇子研究室内  
クロスロードサポーター事務局

## 実践報告続々到着！

クロスロードの実践報告が小田原の黒柳さん、静岡の板坂さん(写真右)から届きました(2, 3, 6 ページ)。高知県黒潮町の友永さんからは新作問題が送られてきました(7ページ)。皆様に感謝！



## 学生の回答は？(解説は5ページ)

## 目次

実践報告続々到着！ 1

学生の回答は？ 1

小田原市でクロスロード 2-3

進級者も続々！ 4

こんなところに心理学(6) 4

あいたた。。。 4

学生の回答解説 5

ドアあけの名人 5

静岡でクロスロード 6

新作問題 7

男女や立場による回答傾向の違い 7-8

クロスロード次号のご案内  
発行予定日：9. 14.  
秋の夜長はクロスロードとともに。。。

## 責任編集

- ・ チームクロスロード
- ・ クロスロード・サポーター
- ・ SPECIAL THANKS:  
高知県危機管理課  
小溝智子(漫画企画)

あなたは	ジレンマ	イエス： ノー (タイプA)	イエス： ノー (タイプB)
パン屋の店員	客席で、お客さんが自分の店のパンを買って食べているが、飲み物は、違う店で買ったものを飲んでいる。「当店の商品以外の飲食はご遠慮下さい」と書いてあるのに。注意する？	7:8	<u>8:7</u>
小学校の教頭	4年3組の担任が欠勤。一日代理を務めることに。しかし、このクラスは学級崩壊状態であった。…授業中突然一人の児童が教室を出ていった。連れ戻そうと声をかけるが全く聞かない。教室を離れその子を連れ戻しに行く？	10:5	10:5
長男の嫁	姑が突然認知症になり、介護が必要な状態になった。あなたにも仕事はあるが長男の嫁であるあなたは親戚一同から当然のように介護をするものだと思われる。近くには老人の施設がある。老人施設へ入所させる？	11:5	<u>7:9</u>
25歳女性平社員	今日は、会社の上司や同期の社員が集まる飲み会。あなたの嫌いな上司がさりげなくあなたを隣の席に呼んでいる。しかし、上司の機嫌をとらないとその場の空気が悪くなるかもしれない。上司の隣に座る？	14:2	14:2
バスの乗客	バスで駅まで急いで向かっていたが、交通事故による大渋滞に巻き込まれ、進まなくなった。ここから駅までは徒歩30分以上かかる上、天候も悪い。バスがすぐ動く気配はない。バスを降りて駅まで歩く？	5:11	6:10
中学生	クラスメイトのB君が教室で5~6人の男子生徒にいじめられている場面をあなたは目撃した。B君は悲痛な様子である。あなたはすぐさま助ける？それとも助けない？	3:13	4:12
新車購入を検討している人	環境のことを考えるとハイブリッド車や燃費の良い車を選ぶべきですが、昔から憧れていたのはスポーツカーのような馬力のある車です。この先何年も使う車なのでやはり自分の好みの車を買う？	11:5	9:7

# 真の防災賢者を目指して、、、（小田原市でのチャレンジ）

## 1 〈生活防災〉との出会い

クロスロード、防災ダック、、、。これらのツールとの“衝撃的な出会い”からちょうど1年が経過しました。

そのきっかけとなったのは、「危機管理」をテーマにした市役所内の政策課題研修に参加したことに遡ることとなります。ご存知のとおり、小田原市は、早くから地震防災対策強化地域に指定されるなど、比較の上では、他自治体よりも地震対策の取り組みが早く、行政も市民も、あたかも整備が進んでいるような感覚でいたわけです。しかし、それが脆くも崩れ去る出来事が今年の4月に発生しました。立て続けに2度起きた市水道送水管漏水事故です。約7,000戸の世帯に5日間にわたる長期間の断水被害が発生し、市民生活に大きな影響を及ぼす結果となりました。

この事故が、行政及び市民に落とした影は、多岐にわたりますが、とりわけ私たちの前に立ちはだかった問題は、危機を自治体が一体となって乗り越えるすべを如何にして持てるのかという課題でした。研修に参加したメンバーで連日ディスカッションを繰り返した結果、「危機意識の向上」こそが、その命題に対しての答えであるとの意見に達したわけですが、いざ実践となると、容易でないことは、日ごろの防災活動に携わる私にとって日の目を見るよりも明らかでした。そんな迷える私たちメンバーに、一筋の方向を示してくれたのが、矢守先生であり、生活防災であり、クロスロード、防災ダックなどのツールであったのです。

## 2 展開 その1

前置きが長くなりましたが、以上のような経過をたどり、クロスロードの実践へと移ることになります。現在までに3回ほど実施しましたが、その中で6月2日（金）に矢守先生を講師としてお招きして開催した講演会について、ご紹介いたします。

主催は、小田原市危険物安全協会。防災講演会の一環と



新作「企業編」実施中

してクロスロードを実施しました。参加者は、市内事業所関係者を中心に約100名です。前半を矢守先生の基調講演とし、後半をクロスロードの実践にあてました。後半は、聴講者を、防災倦怠期を迎えている患者に、講演者を、患者を診察するドクターに、クロスロードファシリテーターをドクターの書いた処方箋を受けて会場の聴衆に薬を調剤していく防災薬剤師に、それぞれ見立てて進行了ました。参加人数の関係上、「イエス」・「ノー」カードを聴講者に渡し、設問に対して聴衆が一齐に意思表示が出来る形式としました。また、意思表示後にインタビューにより意見を述べる事が出来るよう環境を設定しました。もちろん、前述の研修に参加したメンバーもファシリテーター側にまわって奔走したことは、言うまでもありません。

クロスロードを取り入れたことにより、従来の防災講演会とは一線を画した内容に参加者が引き込まれている様子を肌で感じ取ることが出来ました。クロスロードの前には、私の演出？など微塵もありません。



防災に対して倦怠気味の事業所における意識の高揚の呼び水となることを目的として、設問には、矢守先生監修の元、次の新たな2題を加えて実施しました。

□あなたは企業の安全担当者です。

■事務所内には書類棚、ロッカーなどが多数。大地震が来たら転倒するかもしれないが、安全性の高い作りつけの棚を作って事務所を改装するには、100万円以上かかる。それでも改装する？

せーの！で、一齐に



□あなたは企業の係長です。

■今日は管理者が不在。そんな時に大地震が発生。幸い人的被害は無いようだが派遣社員が所属会社に帰るといい始めている。帰社させる？

後者の設問では、現在の事業所の雇用環境を国の白書を元に経年変化としてデータを示しました。

地域の防災力向上（共助）において企業の防災力が果たす役割がクローズアップされる中、それに対しての企業、行政双方の取り組みは、スタート地点についたか、若しくは、まだその準備段階かもしれません。

そうした中、今回このような形にせよクロスロードを多くの方に披露できたこと自体に大きな意義があったと思っています。

市民はもちろんですが、こうした企業に向けたクロスロードの実践も、今後展開が望まれるところなのかもしれません。

### 3 展開 その2

クロスロードと並んで、取り組んでいるのは防災ダックです。昨年中に『奥さま防災博士』の方のご協力を頂き、数園で実践をしたところ、園児にも職員にも好評を得られたことから、現在、保育園児、幼稚園児の防火活動の指導者が組織する小田原市幼年防火委員会で取り入れることが決定され、加入園13園で展開される予定です。指導者の保育士さんには、既にクロスロードも体験していただいております。防災ダックと合わせて、着実に生活防災が育みつつあります。

従来は、幼児に向けたこのようなツールは無かったため、園児とのコミュニケーションに苦慮していたところですが、これをもとに、大分改善されたと思えます。

防災ダックは、遊び方にしても誰かが決め付けるものではなく、自由に展開できることも魅力の一つで、指導者側の現場の保育士さんと情報交換しながら、様々な遊び方を模索しています。年齢によっては、子供向けクロスロードを作成して、防災ダックと組み合わせるのも面白い試みとなることでしょう。また、園の年中行事である運動会、発表会等の催しに取り入れれば、保護者の目に触れることにもなります。世代間のリスク・コミュニケーションにも一役かうこともできるわけです。

みんなでダック！



大人に対してのクロスロードもさることながら、こうした幼少期の教育も非常に重要なことで、子供たちの成長とともにステップアップする防災教育プログラムやツールの登場が望まれるところです。

### 4 終わりに

小田原市は、報徳思想で知られる二宮尊徳を輩出した地でもあります。意外と思われるかもしれませんが、その時代にとっての最大の脅威であった風水害、そして負の副産物となって襲いかかる飢饉に真っ向から対峙し、当時の民衆を危機から救い出した偉人でもあるわけです。現代になぞらえれば、危機管理監と言ったところでしょうか。その偉業を伝えるものが、土手の桜ならぬ土手の松として残っており原風景として見事に溶け込んでいます。

どの地域にもこのように歴史を紐解いてみれば、何がしかの災害があり、それに立ち向かった先人の逸話が残されていると思います。こうした先人の知恵は、現代に通ずるものがあるはずで、それ故、今の我々が生活を営んでいるわけです。その時の、地域の賢者の決断をクロスロードの設問におり込んでみるなど工夫すれば、より一層地域に即したクロスロードができること請け合いです。

上に記したことは、ほんの一例に過ぎませんが、クロスロードの進化は、留まるところを知りません。このようにして、クロスロードの可能性を求めていくことにより、立場の違った者が、各々の垣根を越え、同じテーブルにつき、お互いの意見や価値感を共有しあう。なんて素晴らしいことでしょう！

ファシリテーターとして活躍されていらっしゃる皆様をはじめとして、クロスロードに携わる全ての人が真の防災賢者にならんことを祈願いたします。

(小田原市消防本部 黒柳 幹雄さん)

## 進級者も続々！

以下のかたがたからクロスロードの実践報告および新作問題をお送りいただきました。報告に改めて御礼申し上げます。(敬称略)

【中級】高知県黒潮町 友永 公生  
小田原市消防本部 黒柳 幹雄  
熊本県健康危機管理課 黒瀬 琢也  
【上級】高知県黒潮町 友永 公生

【応募先】108-8345 港区三田2-15-45  
慶應義塾大学商学部 吉川肇子研究室内  
クロスロードサポーター事務局  
電話：06-5427-1251  
ファックス：03-5427-1578  
メール：kikkawa@aoni.waseda.jp

電子投稿はこちら↓  
<http://maechan.net/crossroad/toukou.html>

## こんなところに心理学(6)：「ドアの中の足」と「顔の中のドア」

さて前号でゆうどう君にお約束した防災リーダーになってもらうコツ、今回こそそりお教えしましょう。

心理学が発見した人を誘導する方法に、「フット・イン・ザ・ドア」(foot-in-the-door：ドアの中の足)テクニックと「ドア・イン・ザ・フェイス」(door-in-the-face：顔の中のドア)という有名な方法があります。

「ドアの中の足」というのは、セールスマンが訪問販売に来て断られる直前に、「ちょっと待ってください」と、閉まりかかるドアにいた足を指します。「ちょっとだけでいいから話を聞いてください」といわれて、ちょっとだけのつもりだったのに、気がついたら高額なお買い物をした経験ってありませんか？

最初から高いものを買ってくださいと言っても、普通の人なら断りますよね。でも、「話だけ」「5分だけ」ならどうでしょう？このように、小さいお願いを最初にして、それから段階的にお願いを大きくしていくのがポイントなのです。「小さなことからコツコツと」と、言って国会議員になったタレントさんがかつてあ

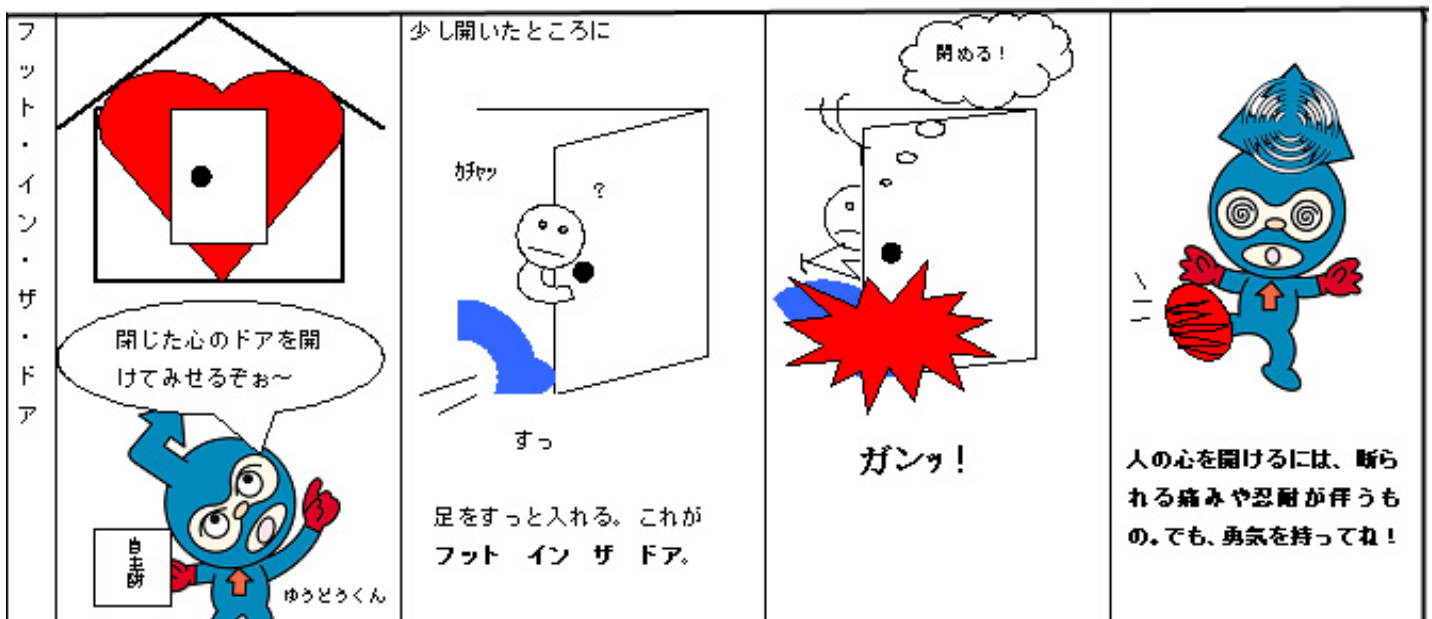
りましたが、防災リーダーになってもらうときも、最初には避難訓練の参加をお願いし、それから講習を、というように簡単にやれる小さなことから始めるのが効果的なのです。

「顔の中のドア」は、これとはまったく逆の方法です。これは、セールスマンの顔の前で、「結構です」といってドアをぴしゃりと閉める様子から名前がつけられました。

でも、相手も人間、みなさんも何かを断ったあとで「断って悪かったかなあ」って思うことはありませんか？このテクニックでは、その気持ちを利用しています。最初に断られるに決まっている大きな要求をして、わざと断らせておいてから、次に本当の目標であるやや小さめのお願いをします。すると、相手はそのお願いを聞いてくれる可能性が高くなります。「お宅を地域の避難所に」とお願いすれば「とんでもない」といわれるでしょうが、その後「せめて防災リーダーになって」とお願いしてみてください。「そのくらいなら」と、あっさり引き受けてもらえるかもしれませんね。

## あいたた。。。

◎やなせたかし





## クロスロード新作問題：学生の回答解説

前回紹介していただいたクロスロードの新作問題は、愛知教育大学で杉浦が2005年度に担当していた講義で、受講者に作成してもらったものです。今度は、それを翌年の今年度(2006年度)の受講者にやってもらいました。

やり方は、ジレンマの問題文とイエス・ノーに○をつける欄(2列、タイプAとタイプB)を配置した表をプリントしにして配布し、講師(杉浦)がその問題文を読み上げて、行いました。最初にタイプBで多数派予測について挙手してもらい、黒板にイエスとノーの人数を書き出します。次に、タイプAでの回答、つまり本人にとって「どうすべきか」の意見分布を挙手してもらい、あわせて黒板に書き出します。タイプAでの多数派、つまり実際の意見分布を予想できた人がポイントとなります。その結果が、1ページの表です。最初の2問は15人で、あとの問題は16人で行われました。

昨年度の講義では、(1)問題文を作ってもらっただけではなく、(2)イエスの問題点、(3)ノーの問題点、(4)解説・インタビュー記事も作成し、(1)から(4)をA4用紙1枚にまとめ、『クロスロード・愛教大編』という冊子を作成しました。さらに、受講生には素敵なプレゼントが配られました。受講者が作成した新作問題を、吉川肇子先生、矢守克也先生、網代剛先生に事前にお送りし、それぞれの先生の観点から、賞を決めていただきました。そして、お忙しい中、短時間でコメントまでいただき、学生に伝えました。

クロスロードの特徴の一つとして、ローカルな知恵を伝承するツールという重要な側面がありますが、以上の取り組みには、二つの伝承があります。一つは、受講生が作成した新作問題を、次の受講生に伝えるという点です。もう一つは、クロスロードの作者である

先生方に、伝えるという点です。

そして、もう少し大きな枠組みでみると、さらに大きな伝承がみえてきます。一つは、受講者が作成した新作問題は、クロスロード神戸編・市民編から、受講者への伝承です。上に紹介した新作問題、よくみると、防災問題と構造が共通しているものを見つけることができます。例えば、2番目。代理で担当した小学校のクラスが学級崩壊、出ていった児童を追いかけるか、追いかけないか、というジレンマですが、「これは一人をとるか、全体をとるか」という問題です。防災においても、同じ構造の問題があることは、言うまでもないでしょう。

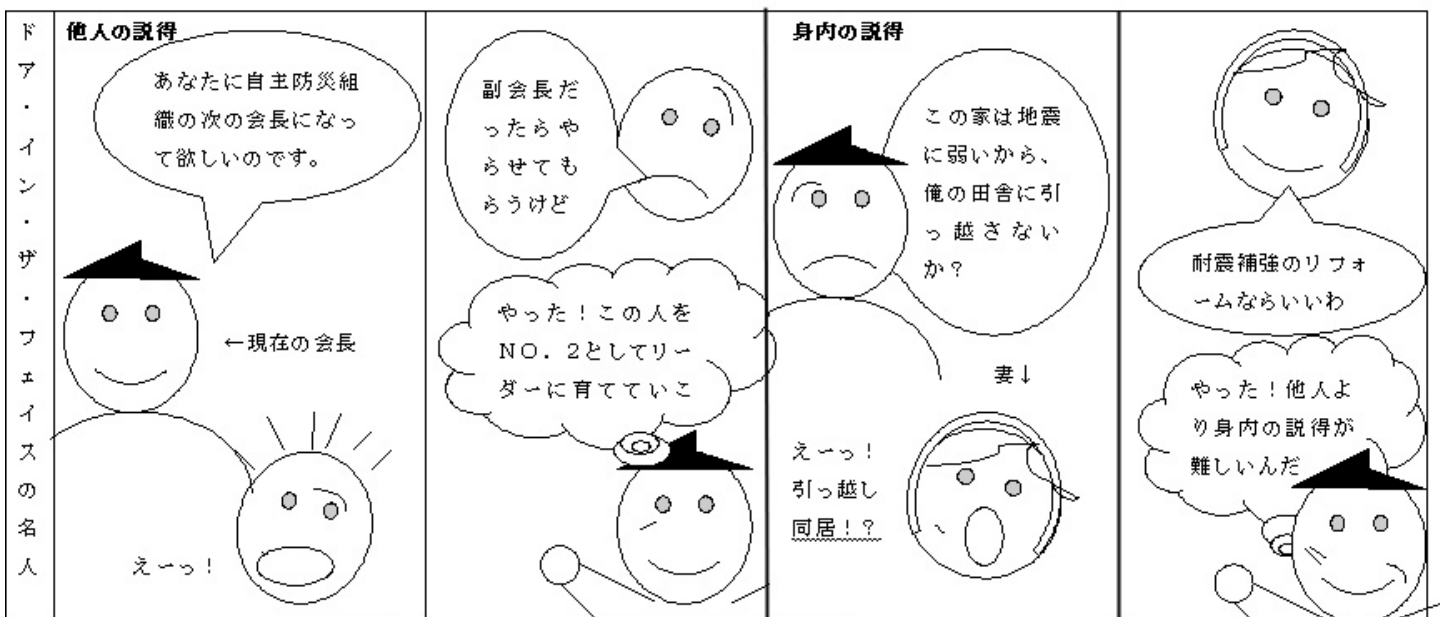
ほかにも、「ある種の行為を注意するか否か」、「上司と部下との関係をいかに保つか」などは、『クロスロード：市民編』のコンテンツにも含まれた内容です。防災で得た知恵は、防災だけに役立つわけではありませんし、「逆もまた真なり」です。

そしてもう一つの伝承。それは今まさに、学生が作成した問題が、防災にかかわる方々を讀者とするこの新聞に登場したことです。学生が作成した一見防災とは関係がないような問題も、もともとは防災から出発したものなのです。こうしてみると、防災というのは、狭い意味でも防災で完結することではなく、生活のあらゆるところにかかわってることが見えてきます。「生活防災」が実感できるツール、それが『クロスロード』ではないでしょうか。

今年度の前期の講義も間もなく終了しますが、今回も受講者の皆さんによって、新作問題とその解説のレポートが届きつつあります。昨年度の問題を踏まえている分、パワーアップしています。いずれまた、皆さまにお届けする機会があることを、そして皆さまから、さらにフィードバックがいただけることを楽しみにしたいと思います。

(愛知教育大学 杉浦 淳吉先生)

## ドアあけの名人



## 静岡県でクロスロード発展中！

静岡県東部地域防災局では、平成18年6月14日（水）に富士宮市役所の職員（防災担当に関わらず係長クラスの職員）を対象にしたクロスロードを実施したので報告します。

やり方としては、パワーポイントを使用して各テーブルで同時に同じ問題に取り組んでいただく方式を採用しています。取扱説明書にあるような各テーブルで自主的に進んでいただく方式は、1問ごとに主役が交代するというメリットがあるのですが、問題に対する解説をすることが難しくなりそうなので採用していません。パワーポイントの画面に問題を表示→ファシリテーターが問題読み上げ→YES/NOカードの提出→カードが揃ったところでオープン→5分程度の議論→ファシリテーターによる簡単なまとめ、を「ふりかえり」の時間がくるまで繰り返して実施するものです。

座る位置によってパワーポイントの画面が見にくい人がでますので、使用する問題はあらかじめクロスノートの形にして配布してあります。一問終了するごとに一枚めくってもらって、考える時の参考にしてもらうようにしています。会場の両側に2台スクリーンを配置して実施したこともあります。

議論が終わるまで待っているといくら時間があっても終わらなくなってしまうので、途中で打ち切りざるを得ない場合があります。そのときには「オフィスベル」を鳴らして合図することにしています。オフィスベルとは、手のひらで叩くと「チン」と音がする卓上型のベルで、学会等で発表時間が終わると鳴らされるアレです。

NHK静岡放送では、月～金の夕方に静岡ローカルで放送している帯番組（「たっぴり静岡」）の中で、毎火曜日に「東海地震に備える」という10分程度の防災情報コーナーを持っています。以前、NHK静岡放送局の記者か

ら、防災訓練等で何かユニークなものがないかという問合せが当局にあり、クロスロードについて説明したところ、強い興味を示してもらえました。今回の富士宮市でのクロスロードでは、この「東海地震に備える」のコーナーの為の取材を受けながらの実施でした。ピンマイクをつけて、カメラに追われながら2時間弱クロスロードを実施し、その様子を取材していただきました。その後、この記者による矢守先生のインタビューを加えて、6月27日にテレビ放送されました。多くの県民にクロスロードを知ってもらえたことと思います。しかし、放送後に問合せなどはほとんどありませんでした。これは、放送中に「東部地域防災局」の名前が出なかったことも理由かと思えます。また、このNHKの記者はクロスロードについて更に取材を行いたいと言ってくれました。私としても、クロスロードの普及について強力な助っ人が得られたわけですから、これからも積極的に活動していきたいと考えております。

さて、静岡県といえば、以前より東海地震の発生が懸念されており、そのための対策をすすめてきました。東海地震は、①予知の可能性があります、それに関する情報体系がある。②東南海、南海地震等と連動するとひじょうに大きな被害が出るのが想定されている等の特徴があります。この特徴に着目することで「東海地震編」を作成することができると考えております。事務局の皆様、クロスロード新聞読者の皆様のご協力とご指導をいただきながら「東海地震編」を作成していきたいと考えております。

静岡県におけるクロスロードの普及については、県内の他の地域防災局も次第に興味を示してくれるようになってきました。今年度中に静岡県内でブレイクさせたいという画策しているところです。近いところでは8月初旬に東部地域防災局管内の市町（小山町、御殿場市、裾野市、沼津市、三島市、伊豆市、伊豆の国市、富士市、富士宮市、熱海市、伊東市、函南町、清水町、長泉町、芝川町の15市町）の防災担当職員向けにクロスロードの紹介とファシリテーション研修を行う予定です。これについては、現在、静岡県東部地域防災局版の「クロスロード進行マニュアル」を作成中です。また、8月中旬に裾野市内で「夏休みこども防災教室」という子供向けの防災イベントを計画しており、その中でクロスロードを実践することになりました。小学4年生～中学生を対象としたクロスロードについては、当局でも実施したことがないので少し不安がありますが、工夫次第でなんとかかなると考えています。こちらについても、イベントが終了したらレポートさせていただきます。

（静岡県東部地域防災局 板坂 孝司さん）



写真は当日の様子

夏近し！  
夕涼みのおともに  
クロスロード新聞



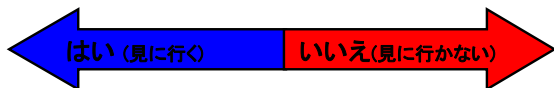
## 新作投稿です：台風災害編

高知県黒潮町の友永公生さんから新作問題の投稿をいただきました。

そのうち、実例を基にした台風災害編2編をご紹介します。皆様もぜひご活用下さい。

あなたは一人で留守番をしています…

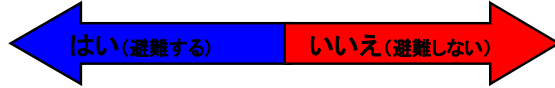
台風が上陸し、雨、風ともに強くなってきた。隣の家の倉庫のカベが「バタバタ」と大きな音を立て、今にもトタンがこちらに飛んでくるのではないかと心配で落ち着かない。  
風雨のなか、外にでて様子を見に行く？



あなたは海岸近くに住んでいます…

台風が上陸しているが、雨や風はあまり強くない。しかし、消防団員が「高波で家が浸かるかもしれないから逃げてください」と言っている。夕方過ぎて辺りも暗いし、これまでの経験から、波は高いようだが今のところ堤防を越えるとも思えない。

消防団の呼びかけどおりに避難する？



## 男女や立場で考え方は変わる・・・クロスロードの回答傾向

「クロスロード新聞」(第2号)でご報告した「アンケート版クロスロード」、その後、皆さまのご協力もあって、データも続々集まり、それに伴って分析作業も進んできました。そこで、今回は、前回報告した全体的な傾向から、さらに一歩進んだ分析結果について、ごく簡単にご報告することにしましょう。

ただし、その前に、「アンケート版クロスロード」をご存じない方のために、若干の復習です。このアンケートは、「クロスロード」(神戸編・一般編・市民編)から、主要な項目を30項目選び、アンケート仕立てにしたものです。今後、アンケートに対する回答結果(データ)が蓄積されれば、「この問題、今回のゲームでは、YESが3人、NOが2人という結果だったけど、みんなはどう考えているの?」といった疑問にお答えすることができるようになります。あわせて、アンケートでは、性別、年齢、職業などもお尋ねしているので、こうした要素によって、考え方が違っているのか、それとも変わらないのか、といったこともわかる仕組みになっています。

今回は、今お話しした性別、職業別の分析結果を見ていくことにしましょう(まだ、データ数が十分でないのと、集ったデータに若干の偏りがあるので、今回は年齢別の分析は報告から外すことにします)。

図1をご覧ください。これは、「クロスロード神戸編」の1010番の問題(あなたは仮設住宅担当。大地震から1ヶ月経過。仮設住宅建設へ向けての毎日。これまで確保した用地だけでは、少なくとも100棟分不足。この際、公立学校の運動場も使う?⇒YES(使う)/NO(使わない))に対する回答を、男女別に見たものです。この問題は全体として、YES(使う)が多数派を占める傾向にあるのですが、男女では、その傾向の強さに若干の違いがあります。つまり、女性の方が男性よりも、YES(使う)を好む傾向が強いわけです。

では、同じ問題を回答者の職業別に見るとどうなるでしょうか。次のページの図2をご覧ください。

ここでは、職業を3つにわけています。まず、「一般」

には、一般企業や自営業など自治体以外にお勤めの方や、学生、主婦などが含まれています。「自治体(防災なし)」は、自治体にお勤めで、かつ、以前に防災や消防部門に勤務した経験がない方です。「自治体(防災有り)」は、自治体にお勤めで、かつ、現在、防災や消防部門に勤務しているか、以前にその経験をもっている方です。図2から、防災や消防に習熟した人ほど、仮設住宅を運動場に建設するのを避けようとする傾向があることがわかります。これらの人では、YES(運動場を使う)を支持する人はむしろ少数派になっています。他方で、一般の人は、7割をこえる人がYES派です。もちろん、このデータだけからYES(使う)/NO(使わない)のどちらが正解かを導くことはできません。ただ、このような考え方の違いがあることを認識しておくことは、今後の対応を決める上でとても大事だと思われます。(次のページに続く)

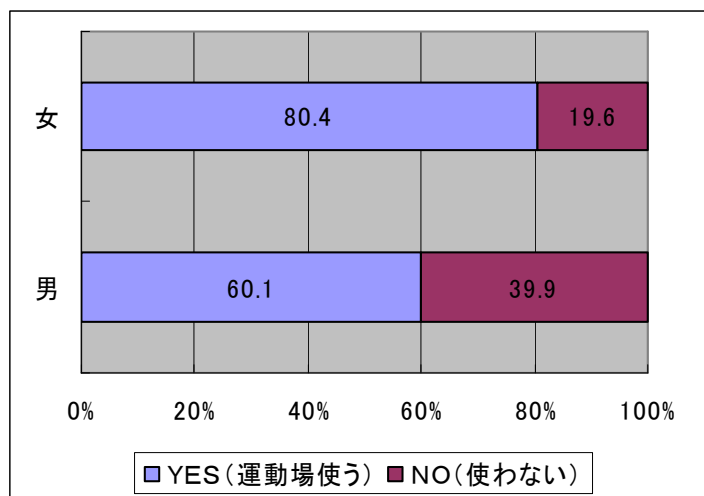


図1 男女別の回答傾向の違い

## 男女や立場で考え方は変わる(つづき)

もう一つ例を挙げておきましょう。今度は、「クロスロード(市民編)」の5005番(あなたは、海岸の集落の住民。地震による津波が最短で10分でくるとされる集落に住んでいる。今、地震発生。早速避難を始めるが、近所の一人暮らしのおばあさんが気になる。まずおばあさんを見に行く?⇒YES(見に行く)／NO(行かない))の問題に対する回答を、男女別(図3)と職業別(図4)に調べたものです。

この設問でも、YES(見に行く)が多数を占めるという全体的傾向の中で、微妙な温度差があることがわかっていただけだと思います。男女別では、男性よりは女性にYES(見に行く)の意見が多く、これは、現実にもそうになっているというより、「女性は思いやり、男性は冷静な判断」といった男女の役割への期待(固定観念)が回答傾向に影響していることのようにも思われます。職業別では、自治体関係者よりは一般の人にYES(見に行く)が多くなっています。自治体関係者には、津波避難の切迫性、緊急性や2次被害の抑止を重視する人が多いのに対して、一般の人は「心情的に…」、「普段のお付き合いを考えると…」などと、どちらかと言えば、「義理と人情」を重視した思考パターンをもっているのかもしれない。

いずれにせよ、男女別、職業別、年齢別、さらには、項目と項目との間の関係を分析していくことで、どのような考え方に基づいて、みなさんがYESあるいはNOと答えておられるのか、その根本を探っていくことが出来るのです。「アンケート版クロスロード」の真のねらいは、まさにこの点を調べていくことにあります。

この続きは、また次回、ということにしましょう。

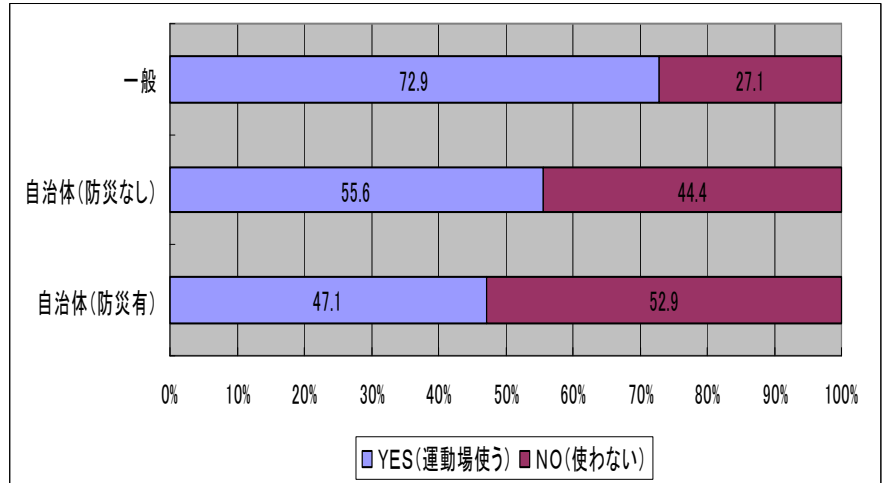


図2 職業別の回答傾向の違い

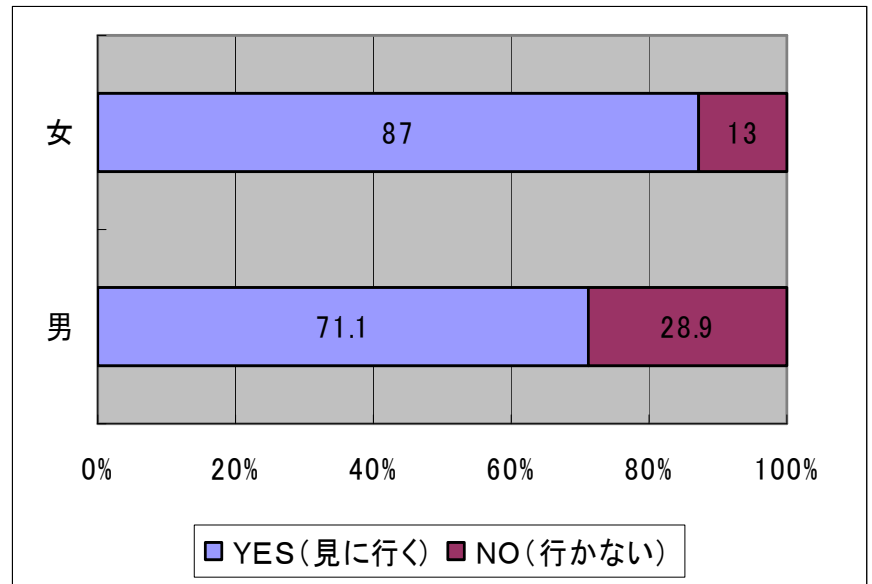


図3 男女別の回答傾向の違い

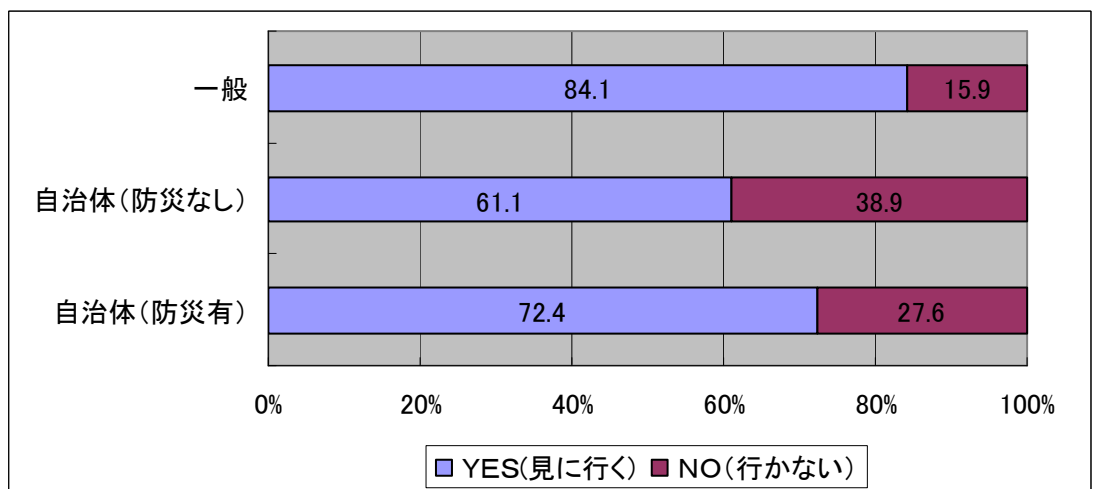


図4 職業別の回答傾向の違い